



議会だより



健康体操で 今年も元気に

- 12月定例会議 2 ページ
- 一般質問 5名登壇 4 ページ
- 議員活動報告 9 ページ
- 村民の声 遠藤 貞幸さん 10 ページ



臨時会議

平成30年関川村議会10月(第6回)臨時会議が10月19日に開催され、関川村一般会計補正予算(第5号)が即日可決されました。

12月定例会議

平成30年関川村議会12月(第7回)定例会議が12月6日から12月13日に開催され、5名の一般質問につづき補正予算7件、条例の制定1件、条例の一部改正5件、事務委託案件2件、人事案件4件が上程され最終日にはすべて可決承認されました。

小学校、中学校に冷房設備を設置するため 設備設計委託の予算が追加されました。



旧女川中学校校舎の解体工事

(第6回) 臨時会議

(10月19日)

平成30年度一般会計 補正予算(第5号)

歳入歳出にそれぞれ870万円追加し、各総額を48億7240万円としました。

主なものとして

・旧女川教員住宅解体工事
300万円追加

・女川体力づくりセンター
(旧女川中学校校舎)
解体工事
500万円追加

それぞれの解体工事に伴う産業廃棄物処理の追加工事費です。

議会の傍聴に

関川中学校3年生の生徒さん達が訪れました。

後日、次のような傍聴の感想をいただきました。

(抜粋)

・「ゆくむ」「アチエーロ」「あいさい市」を活用して観光客を呼び込まないと村の活性化につながらない。

・少子高齢化対策、このまま何もしなければ本当に村が消える。

・村に住んで、地域の活動に参加して元気にする。

・ふるさと納税で収入を得ようとしているが本当に納税が増えるのか。

・議員の質問は明瞭簡潔にした方がよいと思った。

・国会とは違い、村の議会は和やかな感じがした。

・関川村には自分が思っていたよりも問題がある事に気づいた。

一般質問



小澤 仁 議員

・村政一周年を経過して

議員

加藤村長が就任して間もなく一年を迎えるが、一年運営し見えてきたこと、これからの課題等を伺う。

① 就任前に想定していたとおりのこと、また実際に携わって違っていたことは、また、これからの課題は。

村長

就任前に考えていたことと大きく違っていた点ですが、第一に思っていた以上に村の財政が年々厳しくなってきたおり、持続可能な村政運営を行うためには、事業の見直しが避けて通れない状況にあるということ。今後、必要となる施策推進のためには、既存の事業の見直しと合わせて新たな収入の確保が急がれているところ。ふるさと納税など、身近なところから拡充を図るとともに、地域資源を生かした企業誘致あるいは産業振興といった面にも取り組んでいきたいと考えています。次にわかぶな高原スキー場の運営の

難しさを新たに認識したところ。これまで、長年に渡って村からの補助金等によってスキー場の経営を支援してきたわけですが、スキー場の経営は思った以上に厳しい状況にあるというの、私が改めて今実感している所です。スキー場は冬場の観光、雇用あるいは関係する企業、村内企業、商店等への経済波及効果が大きいという事を捉えて、これまで継続的に支援してきました。しかし、高騰する土地代あるいは施設の老朽化による新たな設備、入込客数減少などによる会社の経営不振という現実を踏まえ、村民に情報を共有する中で今後のあり方を検討する時期が来ていると考えています。この冬の状況を踏まえて検討を加速させたいと考えています。

議員

② 昨年12月の選挙の時、マニフェストの一部に「村職員にやる気を起こさせる施策」「高齢者が暮ら

しやすい村づくり施策」があったが、2つの取り組みについて具体的なものが見えてきたか。

村長

職員のやる気ですが、日頃からそれぞれが村の代表だという気持ちで仕事をしてくれと指導しているところです。就任早々に若手の職員と意見交換をし、現在の業務、組織に対する提案や改善点などの話し合いを持ちました。人事においても今今はトップの考えで決定していた様ですが、今年度から職員の意向調査をし、適材適所と合わせて職員のものややる気を発揮させると言うことを頭に置きながら人事をおこなっている所です。

高齢者が暮らしやすい施策は、村でも高齢化が深刻さを増し、65歳以上の人口が総人口に占める高齢率が40%となっています。

住み慣れた地域で自分らしく人生の最後まで暮らしていく事が、村民だれもが願うことです。村では村民

議員

新潟交通の路線バス等の検討も含め、地域デマンドタクシー（予約制乗合）の導入の考えはあるか。

村長

住民の移送の問題ですが、各集落の状況を把握しなければなりません。まず実態を調べ、その上でどんな形がいいのかを考えたいところです。これからどんどん高齢化が進み、ひとり暮らしがふえます。何か対応は必要だと考えています。

一般質問



平田 広 議員

・道の駅関川の更なる活性化を ・人口減少や少子化対策について

議員

道の駅関川周辺には役場や渡辺邸、東桂苑、歴史館などの観光施設等が隣接しており、道の駅周辺一帯は村の観光の中心で、村の顔と認識している。そこで、次の点について村長に伺う。

- ① レストランアチエーロの営業状況について
- ② ゆくむと歴史館の間の土地の活用について
- ③ 直売所あいさい市やトイレ、芝生広場の再々整備

村長

① 現在の借主は「株式会社わかぶな高原」で、平成21年度から営業しています。今年度はスタッフの体制が整わず不定期の営業となっています。

② 一部を駐車場として利用しており、また舗装していないので、臨時駐車場という位置付けになっています。

③ 道の駅については先般の地区別行政懇談会でも改善の意見や要望を多く受けており、村の顔であることは十分認識しています。

再々整備は必要であると考えています。

議員

① アチエーロの賃貸料の状況と今後の対策は。

② 仮の駐車場のままではもったいないので、活用方法の検討も必要ではないか。

③ 観光バスが数台来た場合などトイレは3ヶ所に分散し使い勝手が悪く、あいさい市は手狭で、芝生広場は持て余している状況でもつたないという声を聞くが。

村長

① 月額13万円は規程どおり頂いています。

引き続き借主には常時営業の要請を行い、場合によっては新事業者の参入も検討していきたいと考えています。

②・③については場当たりの整備ではなく、道の駅全体のランドデザインを決め、それに基づいて整備の方向性を定めていきます。有識者を交えてこれらの時代にふさわしい道の駅像を検討し、村民にも公

開して意見をもらいながら、全体のランドデザインを定めていきます。

議員

人口減少は村の大きな課題であるが、少子化対策の取組みで若い人が安心して産み育てられることが出来る村づくりが必要と思う。

① 平成30年度の出生数の状況は。

② 少子化対策と子育て支援への取組みは。

村長

① 今年4月から11月末までの出生数は12人で、来年3月までは計16人となる見込みです。

② 少子化の原因の一つに晩婚化があるが、村上岩船婚活事業を平成28年度から毎年実施しています。

子育て支援としては保育料負担の軽減や医療費助成などに加え、今年度から生後6ヶ月から高校3年生までを対象にインフルエンザ予防助成を行っています。

7月にはファミリースポーツ制度を開設しました。

議員

出生数16人とは想像以上に減少している。大変深刻な状況と思うが、対策について伺う。

村長

国や県の補助事業を活用しながら、村としても婚活事業や子育てに対する財政的あるいは人的な支援を引き続き実施していきます。

婚活事業の関川村分では28年は2組、29年はゼロ、30年は1組のマッチングがありました。

結婚相談所登録補助事業の活用は28年度入会者5件、成婚はゼロ、29年度入会者1件、成婚者ゼロという状況でした。



道の駅周辺

一般質問



伊藤敏哉 議員

・ 村民宛て公文書の管理について
・ 全54集落での個別の懇談会の開催について

議員

村民宛て公文書の管理について伺う。

私の家族宛てに村から送付された文書で内容が把握しづらいものがあった。また、地域の村民の方から、村から送付された文書の内容が理解しづらいというところで相談を受けた事例が数回あった。これらのことから今回、村で作成され、村民宛てに出される文書内容のチェック体制についてその現状を伺う。

村長

役場から村民の皆様にお送りする各種の文書は、役場が住民に対して意思決定や情報を伝える基本的な手段ですので、「やさしく」「わかりやすく」作成することが肝要だと認識しています。文書内容のチェック体制は、文書の起案、合議、決済、浄書という手順を「関川村文書取扱規程」に基づき行っています。

村では、平成23年に、お役所言葉の改善の手引きを作成し、村民の皆様にか

りやすい文書や言葉で接するように職員に指示しています。

議員からのご指摘は、再度職員に徹底し村民の立場に立った「わかりやすい文書」になるよう引き続き指導していきます。

議員

加藤村長は、施政方針説明の集落・コミュニティに関する部分で、村内54集落の集落内での協力体制、集落の垣根を越えた9つのコミュニティ内での集落間の協力体制の重要性について述べている。

コミュニティ組織の役割と重要性は、今後とも今まで以上に村と地域の協働に大きな役割を果たすことが期待されるところだが、今回は、コミュニティの構成組織であり、村の基礎的自治体である「集落」の支援体制について伺う。

コミュニティ組織がそれぞれ立地や規模、抱えている課題が異なるように、個々の「集落」はさらに違った事情と課題を抱えている。

ここで提案するのは村と村内全54集落と個別の懇談会の開催を検討したいことである。集落側からは、

区長さんをはじめ子育て世代の代表、家族の介護をしている人、集落の女性組織の代表、高齢者の代表、青年会の代表、高校生や中学生など、その集落の人口規模、年代構成に応じて集落側から選考してもらい、集落センターで車座で行う。

それぞれの立場の人から考えや意見、要望を聴くことで集落の実情をより深く理解することにつながり、今後の村政運営に反映できる貴重な機会になると考えるが、村長の見解を伺う。

村長

村では11月6日から12月3日の間、コミュニティ単位で行政懇談会を開催し200名余りの参加を得て、さまざまな要望、提案をいただきました。また、村の財政状況をご理解いただく貴重な機会となりました。

村では集落に対する施策として毎年集落要望のとり

まとめを行っており、その中でそれぞれの集落が抱えている現状や課題について、集落内で議論してもらい、その内容を集約して村に伝えていただき村政に反映していきます。

若者や子育て世代、あるいは女性の皆さんなどを個別に対象とした座談会を開催することは各世代のニーズが明確になり大変有効だと考えます。そのことについては実施を含めて検討していきたいと考えています。集落単位の座談会につきましては、全集落での開催は難しいと思いますが、開催に前向きな集落があれば、積極的に参加を検討させていただきたいと思えます。身近な行政の推進という観点から、村職員が地域とかわれるよう地区担当制の仕組みを導入して、地域との連携を深め、身近な行政運営に取り組んでいきたいと考えています。

一般質問



加藤和泰 議員

- ・道の駅の将来構想は
- ・JR東日本デスティネーションキャンペーン(DC)の取り組みは
- ・総合型地域スポーツクラブ設立の考えは

議員

加藤村長の施政方針の中で、道の駅全体のレイアウトを含めた再整備の検討が必要との事であるが、その後の経過は。

村長

まずはしっかりとグラウンドデザインを村民に示し、意見をいただく事が重要と考えております。

この4月に役場職員の検討チームを立ち上げ、先進地視察や検討会を実施しました。

今後は、有識者の協力を求めて、あるべきデザインを作成し、村民の意見を求めた上で中長期的な整備の方向性を定めていきたいと考えております。

議員

前執行部では、将来的に道の駅に産業会館(仮称)を建設し、商工会、管理公社、観光協会、温泉旅館組合など、村の観光に携わる団体の事務所を集約し、団体間の連携、観光振興につなげたいとの意向であったが、村長の考えは。

村長

産業会館の構想については、今のところ、私としては持ち合わせておりません。

議員

2019年10月から12月に、JR東日本では新潟庄内エリアのデスティネーションキャンペーン(DC)を開催、来年はより多くの観光客が新潟県を訪れることが期待されるが、当村での取組みは。

村長

村では、毎年秋に東桂苑で開催しております食のイベント「食地」を核として、歴史情緒あふれる町並みと地元料理を売り込んでまいりたいと準備を進めております。

議員

DCが終わり、関川村を訪れた観光客が、また関川村に来てみたいと思えるようなDC後の展開についての考えは。

村長

アフターDCの中で、この度の取組みが一過性のもものとならないよう、満足度

の向上や他の地域との連携を深めてまいります。

デスティネーションキャンペーンとは、北海道旅客鉄道(JR北海道)・東日本旅客鉄道(JR東日本)・東海旅客鉄道(JR東海)・西日本旅客鉄道(JR西日本)・四国旅客鉄道(JR四国)・九州旅客鉄道(JR九州)のJRグループ旅客6社と指定された自治体、地元の観光事業者等が共同で実施する大型観光キャンペーンのこと。

2019年10月から12月 新潟・庄内エリアで実施

議員

スポーツ振興やスポーツを通じた地域づくり、また地域スポーツの担い手の確保などの観点から、関川村に総合型地域スポーツクラブを設立する考えは。

教育長

総合型地域スポーツクラブは、村上市では旧市町村単位で設立しています。県

内でも35のクラブが各市町村で活動しています。

村でも、総合型地域スポーツクラブの設立を検討しましたが、人口減少や財源負担、人材確保の問題もあり、当村では難しいと考えました。

議員

総合型地域スポーツクラブは難しいとしても、スポーツ少年団の指導者の育成将来的にも村のスポーツの指導者の担い手の確保、指導環境を整える取組みを要望する。

総合型地域スポーツクラブとは、人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブです。

平成7年度から育成が開始され、平成29年7月には、創設準備中を含め3,580クラブが育成され、それぞれの地域において、スポーツの振興やスポーツを通じた地域づくりなどに向けた多様な活動を展開し、地域スポーツの担い手としての役割や地域コミュニティの核としての役割を果たしています。

一般質問



高橋正之議員

・道の駅周辺の整備について ・村内の危険地域の危険箇所は

議員

このたび行われた行政懇談会において、道の駅周辺整備についてたくさん質問が出され、いろいろ返答もあつたが、実際の取り組みと計画について伺う。

村長

道の駅の整備については、村民の思いも強いと感じています。国交省の幹部の方々とも相談をさせていただいています。

そのときに指摘をもらっているのが、まずどんな道の駅にしたいのかというコンセプトを立てる必要があるということです。そういう中で整備が必要であれば、財源的な問題については農水省の金を使うのか、あるいは国交省の金を使うのか、十分相談に應じるので検討すべきだというアドバイスをいただいています。まずはその地域をどういう形にするのか、コンセプトも含めてランドデザインをつくる必要があると考えています。

このランドデザインの作成については、新年度には取りかかり、できるだけ早い時期に成果を出していきたいと思っております。



道の駅 関川

議員

ことしは全国的に自然災害の多い年であつた。幸いにも、当村においては無災害だったが、いつ何時、災害に見舞われるかわからないという状況下にある。

危険地域、危険箇所など詳しい情報を伺う。

村長

危険地域、危険箇所については、大規模なものとしては、ことしの9月に発生した北海道胆振東部地震や7月の台風前線による関西を中心とした平成30年7月豪雨を初め、国の取りまとめによれば被害が大きなものとして8件程あると聞いています。

質問の村内における危険箇所においては、土砂災害警戒区域、重要水防箇所、雪崩危険箇所の3種類があります。

1点目の土砂災害警戒区域ですが、指定された箇所が123カ所あります。これは、土砂災害防止法に基づき新潟県が県内を調査したものです。内訳は、急傾斜の崩壊が51カ所、土石流の流出が58カ所、地すべりが14カ所となっております。

2点目の重要水防箇所ですが、荒川においては堤防の整備がほぼ終了していますが、増水による堤防からの漏水や越水の危険性がある箇所が重要水防箇所として

19カ所指定をしています。内訳としては、左岸側が7カ所、右岸側が12カ所です。また、県管理河川においては、5河川で10カ所が県の重要水防箇所となっております。

3点目の雪崩危険箇所については、19カ所となっております。平成29年に改正した関川村地域防災計画や本年度予算で作成をする土砂災害ハザードマップをこらんに、災害発生時の安全確保、避難誘導に活用をしていただきたいと思ひます。



各戸に配布済みのハザードマップ

村民の声

時代の変化と生活環境



えん 遠 藤 さだ 貞 ゆき 幸 さん
(大内 幸)

時代の変化と共に生活スタイルも変化し、車社会化された現代では、全国的な高齢化社会の進展に伴い、高齢運転者の増加と高齢者が関わる交通事故の増加が社会問題となり、対策として道路交通法の改正により、高齢運転者に対しての免許制度が厳しさを増しています。

私は、村上中央自動車学校に勤務し、七十歳以上の方の運転免許更新時における講習に、平成十年より携わり、悲惨な交通事故を起こさない、遭わない為に有益なものとなる様、取り組んでいます。

講習業務を通じて、村上地域の高齢運転者の増加と高齢者世帯における自動車の運転の必要性を強く感じています。特に公共交通機関が十分でない地域では、高齢者が日常の生活を維持するにあたっては、自動車の活用が不可欠であり、身体的不具合を抱えながらも、必要に迫られ買い物や通院、農作業等に運転しな

ければならない状況にあり、受講者からは「出来れば運転したくない」又は「大切な足である車の運転ができなくなったら今の場所には住んでいられない」という言葉をよく耳にします。

近年では先進安全自動車の開発技術が進歩し、安全性が向上してはいますが、完全なものではなく、高価な物で手にする事は容易に出来ません。

各都道府県では、運転免許証を返納された方をはじめ、高齢者がマイカーに依存することなく移動することができ、充実した生活を続けられるよう、地域の実情に応じて、自治体や事業者等による様々な支援が行われていますが、村上地域では行き届いていないのが現状です。

この問題につきましても、当村でも同様で、より深刻な状況にあると思います。

村政においても、厳しい財政の中、人口の減少や少子高齢化等、様々な問題を抱え、生活環境の向上に取

り組んでいる事と思いが、豊かな自然に恵まれた関川村で暮らす全ての方々に住み易い環境づくりに関後とも取り組んで頂きたいと思えます。

今年元旦は久しぶりにご来光を拜むことができた和やかな年明けでした。村では急激な人口減少や厳しい財政状況の中で将来像の具体的策定が急務となつています。

この様な中で議会の動きを村民の皆様によりわかりやすく、より身近にお伝えするよう「議会だより」の編集に広報委員一同で取り組んでいく所存です。今年が皆様にとって良い年であることを祈念申し上げます。(鈴木)



- ・一時停止の交差点では停止線手前で停止し
- ・安全確認後、見通せる場所まで出て
- ・もう一度停止し安全確認を行きましょう。

編集後記

議会広報常任委員会

- 委員長 鈴木万寿夫
- 副委員長 高橋 忠夫
- 委員 高橋 正之
- 委員 近藤 良平
- 委員 加藤 和泰
- 委員 伊藤 敏哉

次の議会定例会議は
3月7日(木)

大勢の傍聴を
お待ちしております。